

岐阜工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)		授業科目	地域都市計画	
科目基礎情報							
科目番号	0237			科目区分	専門 / 必修		
授業形態	授業			単位の種別と単位数	学修単位: 1		
開設学科	建築学科			対象学年	4		
開設期	前期			週時間数	1		
教科書/教材	みんなの都市計画（脇田祥尚，理工図書2009,4）						
担当教員	鶴田 佳子						
到達目標							
①建築のデザインと都市空間構成との関わりを理解 ②近代都市計画思想・理論の理解 ③日本の都市計画制度において、主に建築の規制誘導手法やその問題点を理解する							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
建築のデザインと都市空間構成との関わりを理解	建築のデザインと都市空間構成関わりに関する問題が正確に解ける。			建築のデザインと都市空間構成関わりに関する問題がほぼ正確に解ける。		建築のデザインと都市空間構成関わりに関する問題を解くことができない。	
近代都市計画思想・理論の理解	近代都市計画思想・理論の理解に関する問題が正確に解ける。			近代都市計画思想・理論の理解に関する問題がほぼ正確に解ける。		近代都市計画思想・理論の理解に関する問題を解くことができない。	
日本の都市計画制度において、主に建築の規制誘導手法やその問題点を理解する	都市計画制度に関する用語、仕組みや問題点に関する問題が正確に解ける。			都市計画制度に関する用語、仕組みや問題点に関する問題がほぼ正確に解ける。		都市計画制度に関する用語、仕組みや問題点に関する問題を解くことができない。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	建築計画を進める上で不可欠となる、建築が都市の主要な構成要素として、都市空間の中でどのような社会的意味を持つかを理解する。 具体的には近代都市計画発生の経緯や初期の都市計画理論、および現在の日本の都市計画制度における主に建築にかかわる規制誘導手法やその問題点を理解する。そのことによって、建築技術者として必要な社会的視野を身につける。						
授業の進め方・方法	第 1回～第 4回では、この授業の導入として、建築物を都市構成要素としてどのような視点で見ていくのかを都市デザインとの関わりを通して説明する。第5回～ 6回では 欧米の事例を挙げながら 近代都市計画初期の理論について解説を行う。第 7回～第 15 回では、日本の都市計画制度の仕組みや問題点を通して、都市計画の制度的方法論（実践論）を解説する。						
注意点	運用に裁量性を含む景観計画および地区計画については個別事例の調査およびWSを踏まえたレポート課題によって理解を深める。 なお、成績評価に教室外学修の内容は含まれる。 学修教育目標：（D－2 社会技術系）100％ JABEE基準1（1）：（d） Technical terms						
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	授業の進め方、建築と都市のデザイン(考え方)		建築と都市のデザインとの関係を理解できる。		
		2週	建築と都市のデザイン(事例からの考察)(ALのレベルC)		景観計画および景観形成基準について理解できる。		
		3週	デザインガイドラインに関するワークショップによる討議と発表(ALのレベルA)		景観形成基準の実例からデザインガイドラインとして定める事項を理解できる。		
		4週	地域・地区のデザイン		地域・地区のデザインの把握および地域特性別のデザインの考え方を理解できる。		
		5週	近代都市計画思潮（近隣住区論 ほか）		田園都市論や近隣住区論について説明できる。		
		6週	近代都市計画制度の展開と成熟社会の都市計画		コンパクトシティの概念について説明できる。		
		7週	都市計画制度の枠組み／都市計画マスタープラン		日本の都市計画制度の仕組みおよび都市計画マスタープランについて説明できる。		
		8週	中間試験		7週までの内容を理解できる。		
	2ndQ	9週	土地利用計画		線引き制度・開発許可制度・用途地域制の仕組みおよび課題について理解できる。		
		10週	地区計画		地域地区制の仕組みおよび課題について理解できる。		
		11週	地区計画の事例調べ		地区計画の実践事例から地区計画の役割を理解できる。		
		12週	都市施設の計画・公園緑地計画		土地施設の計画の枠組みおよび公園・緑地計画について理解できる。		
		13週	都市交通計画		都市交通計画の考え方、手法について理解できる。		
		14週	市街地開発事業の仕組みと問題点		土地区画整理事業および市街地開発事業の仕組みと問題点について説明できる。		
		15週	期末試験				
		16週	日本の都市計画制度の総復習		日本の都市計画制度を理解した上で、人口減少時代の都市計画について考えることができる。		
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標		到達レベル	授業週
専門的能力	分野別の専門工学	建築系分野	計画・歴史	現代社会における都市計画の課題の位置づけについて説明できる		4	
				近現代都市の特質と課題について説明できる。		4	

				近代の都市計画論について説明できる。	4	
				現代にいたる都市計画論について説明できる。	4	
				市街地形成と都市交通のあり方について説明できる。	4	
				街路計画の手法と理念について説明できる。	4	
				日本の土地利用計画の仕組みについて説明できる。	4	
				方法・制度の変遷について説明できる。	4	
				景観形成・風景計画、用途・形態規制の仕組みについて説明できる。	4	
				市街地を開発する仕組みについて説明できる。	4	
				土地区画整理事業について説明できる。	4	
				市街地再開発事業について説明できる。	4	
				地区計画制度について説明できる。	4	
				建築協定・緑化協定などの住民参加・協働のまちづくりの体制について説明できる。	4	

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	200	0	0	0	0	20	220
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	200	0	0	0	0	20	220
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0